

1 CRPとは なんですか？

CRP(C-反応性たんぱく)は、体内での急激な炎症が起こると血液中に増えるたんぱく質です。外傷や病気による組織の損傷でも上昇します。炎症の早期診断や、炎症の程度、その経過を調べるために測定されます。

2 炎症とは、どんな状態のことですか？

炎症は、体になんらかの有害な刺激を受けたときに起こる反応です。炎症が生じるとその部位には、赤みを帯びる(発赤)、腫れ(腫脹)、熱を持つ(熱感)、痛み(疼痛)を感じるようになります。これを炎症の4徴候と呼びます(その部位の機能障害を加えて5徴候ということもあります)。この反応は、体の防御反応の一部で不可欠なもので、体内での免疫反応などの結果、痛みの出現、血管の拡張や血管透過性亢進(血漿成分や白血球の遊走)により起こります。

ただし炎症反応が、過剰で必要以上に強い場合や、持続する場合には生体に悪影響をもたらすこともあります。炎症には、急激に起きる急性炎症と、炎症が持続する慢性炎症に分けられます。

専門医が教える 健診で受ける検査の意味 ⑰

CRPの検査について

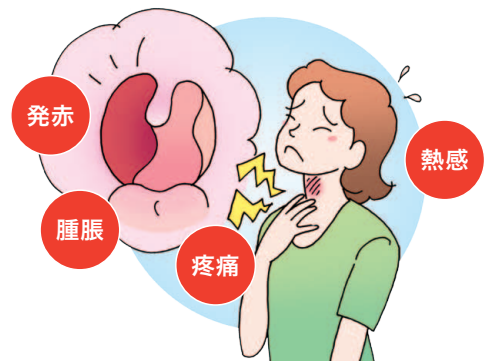


日本臨床検査専門医会
金子 誠

3 検査でわかることはなんですか？

感染症や膠原病などの炎症性疾患、外傷や手術、疾患を起因とする組織損傷の存在などが疑われます。体内に炎症が起きたときには早期に上昇して、炎症が治まると比較的早期に減少します。このため、数値により炎症の程度を推定でき、治療効果の判定にも用いることができます。近年では、高感度に測定する方法も行われており、動脈硬化などの慢性炎症や新生児感染症の予知マーカーなどに有用であるとの報告があります。

炎症とは…



4 異常値だった場合にどうしたらよいでしょう？

数値が上昇してCRPが高値であれば、なんらかの炎症が起こっているということです。この原因について、さらに詳しく調べる必要があります。CRPは、全身性の炎症を測定しているので、どの臓器、部位にあるかはこの検査だけでは明らかにできません。その原因について把握するためには、問診や診察、他の検査から総合的に判定する必要があります。